



高梁川流域
CROSSING

くらしき協力隊通信

2023.11 Vol.18

竹炭と事業の今後について

【初のイベント出店！】

以前、竹炭を使った試みとしてという内容で活動ご報告をさせていただいた竹炭パウダーですが、商品化を進めて、11月の初旬に真備町内のイベントにて、初の出店販売を行うことが出来ました。

今回は、竹炭パウダー入りのドーナツを作り、実際には、竹炭やパウダーがお客様に受け入れられるのかについての調査を含めた販売でした。

結果として、準備した200個以上のドーナツをなんと**完売**することが出来ました

期待と不安の入り混じった中での販売でしたが、意外にも興味を示してくれる方が殆どでして、かなりの好感触でした。

今回のイベントを通して、竹炭やパウダーに真備地区でも興味を示してくれた飲食店さんもあって、イベントとして成功出来たと思います。

真備町の魅力発信の1つとして始めた竹炭ではありますが、開発を進める中で気付いた価値が2つあり、今ではその価値も伝えたいと思って作っております。

僕が気付いた価値について、これからご説明させていただきます。



【循環型社会への取り組み】

1つ目は、竹を通じた、循環型社会への取り組みです。

竹は真備町の魅力の一つでもあります。同時に成長の早い竹による竹害の防止や竹林の景観保護の為に多くの竹を伐採する必要があります。しかし、伐採した竹をそのまま処分するというのは、せっかくの資源を無駄にしているのではないのでしょうか。

そのため、竹炭やパウダーを作るために使う竹に、こうした竹林の管理のために伐採した竹を使うような仕組みを作り、資源を無駄にしない循環型社会への取り組みに繋げようと考えています。その中では、竹炭を作る際に出た灰も廃棄せず、肥料に使用することも合わせて検討しています。





【ダイバーシティへの取り組み】

2つ目は、ダイバーシティ（多様性のある社会）への取り組みです。現在、竹炭やパウダーは「NPO法人こもれびの里」という団体と一緒に作っているのですが、この団体は障害のある方への支援にも取り組んでいます。

そこで、NPOと協議し、将来的には竹炭に関する事業の一部を障害のある方への就労先とできるよう、検討を行っています。

今後、竹炭に関する事業を軌道に乗せ、商品化した竹炭を多くの方が買ってくださることが、障害のある方を含めた多様性のある社会の実現に繋がるという仕組みを目指しています。

【これからの展望】

これからの動きとしては、事業として持続化出来るようにしっかりと土台を作りながら、真備地区の飲食店をはじめとした事業者さんに真備の特産の一つとして使って頂くことを最初の目標とし、将来的には少しずつ認知や販路を広げていき、真備町の魅力発信を行うと同時に、循環型社会やダイバーシティの実現など、持続可能な社会の実現に向けて、お客さまや関係企業・事業者と一緒に取り組めるような事業にしていきます。

【編集後記】

これまで、念願だった出店販売やイベントの成功など、着実に竹炭の商品化のステップを進めることができました。本音としては、竹炭に対する印象が思ったより良く、ホッとしたところです。

しかし、ホッとしたのも束の間、ステップが進んだことで、取り組まなければいけない課題もたくさん見えてきました。

ステップが進んだ結果、新しい課題が見えてきたということは、とてもありがたいことでもあるのですが、事業として本格的に進めていくことの難しさを痛感しています。

地域おこし協力隊として、良い結果を真備町に残せる様に尽力していきますので、皆様どうか応援の方をよろしくお願いいたします。

これからも協力隊通信やSNSなどを通して活動報告を行っていきますので、チェックもよろしくお願いいたします。



倉敷市真備町協力隊吉田

インスタのリンク https://instagram.com/yoshi_masa3?igshid=YmMyMTA2M2Y=



@YOSHI_MASA3